

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームかわにし緑台		
所在地	川西市緑台7丁目3番43号		
自己評価作成日	平成28年3月7日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2017年 3月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まんてん堂の理念を念頭に置き かわにし緑台グループホームの理念を職員全員で考え「皆が自然に笑顔になり、その人らしい生活が出来る居心地のよい施設」職員は自ら作った理念を理解し 理念に基づき 入居者一人一人のその時の状況に沿ったケアを行えるよう行動する。改めて日々確認しあい話し合い 進めている。 地域密着型施設として 祭りや文化祭出展など 入居者様と参加、見学させて頂いており 地域との関わりを少しずつでも 大切に繋げていきたいと思っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年目を迎え、法人理念である「自分が入りたい施設」を具現化した独自の理念を、全職員で掲げた。職員はこれまで以上に、利用者が自宅と同じように安心して自分らしく過ごせる環境を心がけ、個々の生活スタイルに応じて柔軟に取り組んでいる。利用者主体の生活を尊重し、一人ひとりがしたいことや好きなことを意欲的に取り組めるよう、利用者の自然な笑顔を導きながら、楽しい雰囲気づくりにも心がけている。特に、利用者への過剰なケアや、事前に職員が手際よく準備することでおこりうる意欲の低下、或いは、利用者のペースを損なうことなく利用者自身の力を発揮できるきっかけづくりを、大事にしている。この度の5周年の節目を新たなチャレンジとして、今後の職員の飛躍を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂理念を踏まえたうえで 事業所理念を職員全員に 意見・希望を書面で提出してもらい 話し合い作成した。常にそれを念頭に置き 実践できるよう努めている。	職員自身による独自理念掲げ、改めて職員間の意識統一を図った。中でも利用者の笑顔を目標にすることで、日々のケアを見直し、職員にとっても意識を再確認する機会となった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会が行っている行事・イベント(夏祭り・文化祭)に継続して 参加し地域との交流を行っている。	自治会に所属し、地域の季節行事には定期的に参加している。新たに地域サロンでへの参加を検討しており、地域との交流をより推進していく予定である。今年5月に5周年記念行事を予定し、そのための全利用者、職員による合同の記念作品を制作している。家族だけでなく地域へも来訪を働きかけていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加された方々に、施設の役割や状況を知って頂く様 機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を通じてサービスの報告を行なっている。民生委員さんにも参加して頂き 家族の不安や関わり方の説明をして頂いた。	地域代表者、地域包括、家族、利用者の参加を得ている。スポットとして福祉用具貸与、訪問歯科の参加もある。事業所からは行事だけでなく、事故やヒヤリハット報告を通じて、利用者の状態や様子を伝えている。地域包括からも随時アドバイスを得るなど、貴重な情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より何かあれば、地域包括支援センターの方や市役所担当の方に報告・相談を行ない、指導・助言を頂き、より良いサービス提供が出来る様に努めている。	必要に応じて事故報告を行い、随時アドバイスを得るなど、相談している。事業所で不明な点や疑問点があれば、その都度相談できる関係であり、今後も協力関係を築いていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時研修で身体拘束研修を受けたうえでの現場配置となっている。年に一回以上身体拘束の研修を行っており、職員が日々の業務を振り返る機会を設けている。玄関施錠は 立地上危険なため 行なっているが フロアの行き来は 職員と共に常に行なっている。	年間研修計画に盛り込み、毎年研修は実施しており、職員は理解している。事業所の立地から、玄関の施錠は行っているが、フロアの行き来の際は、利用者の様子を見て職員が付き添っているが、自由に行き来できる環境ではない。屋上に行きたい希望等には、職員はその都度対応している。	利用者の閉塞感を少しでも軽減するためにも、フロア間を自由に行き来できる時間帯の検討を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修で虐待研修を受けたうえでの現場配置となっている。年に一回以上虐待研修を行っており、職員が日々の業務を振り返る機会を設けている。	内部研修として、これまでは講義が大半であったが、今期は実際の自分自身の体験等をあげ、それを基に意見交換を行った。結果、気づきを得ることで、あらためてこれまでのケアを振り返ることができ、改善につながった。言葉かけ等については、リーダーを中心に、職員間で注意し合える環境ができてきている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の研修を学ぶ機会を設けている。年間研修予定に組み込み行なう予定となっている。	現在、活用している利用者がいることで身近な事例となっている。以前、担当の司法書士に講師を依頼した経緯があり、職員は大まかな理解はある。次年度は、計画に盛り込む予定である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には口頭及び文書で説明を行い不安や疑問点に関しても不安解消、疑問の解決に努めている。	契約時には、特に重度化や終末期の対応について、丁寧に説明している。家族の不安としてもよくあがることから、事業所の方針、家族の意向についても相談を受けている。その他、生活の中で起こりうる事故等についても、具体例を参考に納得を得ている。見学等は、いつでも対応することを伝え、利用者に雰囲気馴染んでもらうことを勧めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の面会の際に、意見を聞く機会を設けている。事業所入口に意見箱を設置している。	運営推進会議や普段の来訪時に、意見や要望等を聞くようにしている。別に時間を設け、ゆっくり相談を受けることもある。災害時の対応や嚙下について、職員の体調への心配等の意見があがり、その都度説明し、対応に努めている。家族と職員のコミュニケーションを深める事例があり、改善につながった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来る限り職員に声を掛け意見や提案を聞くよう心掛けている。	日々の会議や申し送り時には、積極的に職員からの意見や提案を促している。管理者は、業務の中でも話を聞くようにするなど、職員の意向を汲み取るよう努めている。外出レクリエーションの新規提案が多く、新たな手作り作品の提案もあがった。地域のサロンへの参加についても職員からあがった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者にはステップアップの為の社内研修を設けており、やりがいを持って働ける様環境を整えている。また、各職員に個人目標を立て、達成できているか聞き取る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修へ参加し スキルアップを行っている。また、管理者と職員でケアに困っていることを話し合う機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での事業所交流会は定期的に行っている。お互いの問題点などをあげ 意見交換している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際 ご本人に要望や不安点をお聞きし、早期の信頼関係の構築に努め、日々の関わりの中で 会話やご様子の中から安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談時に家族の悩みや困り事を解消出来る様に丁寧に話しを聞き相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人、家族の状況や要望を確認した上で自施設のサービスだけではなく他の介護サービスについても説明し本人、家族にサービスを選択して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り自立した生活を営んで頂ける様に本人の出来る事、出来ない事を見極め能力を最大限活用できる様に職員一同ケアを行っている。コミュニケーションを大切にし人として共に笑、悲しみ、支え合う 当たり前の生活を送って頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や運営推進会議時に入居者様の普段の生活状況をお伝えし、ご理解を頂いている。また いつでも面会に来て頂ける様 職員も普段の家族との関わりを大切にしている。携帯メールなどを利用し気軽に状況報告が家族様とれる環境である。連絡、相談を怠らず共に本人を支えているという意識を持って 取り組んでいる。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人との面会を歓迎し又、家族の協力により自宅や馴染みの場所(美容院など)に行かされている。	週1回の来訪から月2~3回の来訪等、家族だけでなく、知人や友人の来訪も多く、職員は再来訪を促している。自宅に帰省し、食事を家族と一緒にしたり、外泊することもある。大学時代の友人からの電話や知人からの電話を取り次ぐこともある。家族の協力を得て、外食したり、馴染みの美容院へ通っている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り協力して共同生活を営める様に一人一人の性格や出来る事を把握し職員が間に入り、支え合える支援に努めている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今後の利用先とも連絡を行ったり家族から相談があれば出来る範囲での協力が出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々のコミュニケーションの中から得たその方らしい暮らしをして頂く為に把握に努めている。情報をカンファレンスで共有し、ケアプランに盛り込めるように繋げている。	利用者一人ひとりのペースを尊重し、その人に寄り添うことで思いや意向を把握している。普段のなにげないやりとりや居室での会話、時には表情やしぐさからも汲み取るようにしている。家族からの情報を参考にすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況の把握を行い、その人らしい生活を送れるように努めている。意思表示の難しい方には、家族の意向を確認したり、本人の状態により家族に分かる事を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や体調の変化など見逃さないように支援しながら様子観察をし、状況を介護記録に記載。毎日の申し送りや記録を振り返り、ケアカンファレンスで意見交換し、アセスメント要約表も活用している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人、家族、職員と話し合いの場を設けている。必要に応じて、主治医・訪問看護師へも相談している。また毎月のケア会議でも職員間で意見交換を行い、現状に即した支援が出来るか振り返り、次の計画書を作成する際参考にしていく。	毎月の会議で、担当職員を中心に利用者のモニタリングにより、状態把握を行っている。基本、3ヶ月毎に介護計画を見直しているが、入院等の状態低下に応じて柔軟に反映している。家族や医療関係者の意見やアドバイスも適時組み込むなど、その人らしい計画となるよう作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を個別に記録、職員間での情報を共有する為に、変化や気づき等記入する「申し送りノート」を活用している。また、計画書更新時は、必要な時はフロア職員にモニタリングを行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時、家族様のみでの対応が厳しい時は、送迎、付き添い、移乗等行っている。ご家族が遠方の場合、衣服や身の回りの生活用品の購入など家族に代わり行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に、参加して地域との交流を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力指定医の往診、訪問看護の巡回を行っており、従来のかかりつけ医の継続希望の場合は入所前のかかりつけ医を専門医(眼科・神経内科など)として継続受診されている。	馴染みのかかりつけ医の受診を支援し、家族による通院となっている。現在、多くの利用者は、協力医の往診を受けている。眼科・歯科も毎週1回の訪問があり、希望出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の前々日には、事前に身体情報を提供し、訪問時直ぐに対応できるように連携を図っている。いつでも電話相談出来る体制を整えている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者、ご家族様と密に連絡を取り、安心して治療が出来るように情報提供をし、入院時の様子を把握するように努めている。出来るだけ早く元の生活に戻れるように、医療関係者、家族様と一緒に相談出来るような場を設けるなど関係づくりに努めている。	入院時は職員が付添い、利用者の情報を提供するなど、病院との連携を図っている。早期退院に向け、担当者や医療関係者、家族と随時話し合いを行い、事業所としての受け入れ体制を整えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。終末期の支援については、施設で出来ることを十分に説明した上で、入居者様にとって最善の看取りを選択できるように、本人、家族、医療機関等話し合うようにしている。	契約時に、事業所の方針を説明し利用者・家族の意向を確認している。昨年、ターミナルを経験したことで、主治医を交えたチームケアの重要性を学び、その結果、職員の達成感と自信につながった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には、救命講習の受講を推進している。急を要する時、適切に初期対応をし、救命できるように今後も定期的な受講をすすめている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害に備え、消防署の指導の年2回施設全体で合同訓練を実施。昼夜問わず利用者が避難出来るように訓練を行っている。災害時に備え、食糧、飲料水、ひざ掛け、カセットコンロ、懐中電灯などの物品を準備している。適切な初期対応でマニュアルなどすぐ目に入る場所に置いている。	年2回、昼・夜間想定訓練を、消防署立ち合いのもと実施している。初期消火係、避難係、指揮係を職員間で分担して、実践に即した訓練を行っている。現在のところ、地域との協力体制はまだ手つかずの状態である。災害時に備え、備蓄は出ている。	運営推進会議を通じて、一度、事業所での避難訓練を見学してもらうことを依頼してみたいかがか。

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉遣いには 常々職員同士で注意している。お一人お一人の人格を大切にすることを念頭におくよう努めている。入浴時トイレ時などは タオルなど使い最小限の露出に努め 排泄確認も 本人のそばで 声掛けし確認をするなどプライバシーを損ねないように努めている。	職員の利用者の自尊心を傷つけないケアを心がけている。言葉遣いについても馴れ馴れしくなく、命令口調にならないように気を付けてもいる。利用者の意思や思いに寄り添うことを大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で密にコミュニケーションを取り、利用者様の思いを大切にし自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の今までの生活リズムも大切にしながら出来る限り 利用者様のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服の選択ができる様に利用者様に確認しながら支援している。家人様と連携をとりながら 遠方の家族様の場合、職員が本人と一緒に買い物に行き選んで頂く場合もある。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛り付けや食器洗いはご入居者様と一緒に 行っている。食事形態をご入居者に合わせ食べやすく安全な食事を提供している。月2回の食レクの日を設け 入居者様の要望を取り入れ 買い物や調理の準備盛り付けなど皆で一緒に楽しみながら実施している。	食事中は音楽を聴き、会話を楽しみながら食事している。業者から届いた食材を、時には調理方法や味付けを利用者の好みに変えるなど、柔軟にメニューを変更している。普段、職員と利用者が一緒に食べる機会は少ないが、食レクやおやつレクは、利用者と手作りする楽しみな時間になっている。	職員と利用者が、一緒に楽しめる食レクやおやつレクの機会を、出来るだけ設けていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分量を記入し、把握している。水分量の少ない利用者様には、こまめに提供している。その方の好まれる飲み物を提供するなどして 少しでも水分補給ができるよう 努めている。家人様が好みの食事を持参される時は提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している就寝前には義歯を使用されている方は職員がお預かりし義歯洗浄剤を使用し保管している。週一回の訪問歯科により、希望により ケアや必要時には治療を行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調の変化で 排泄の失敗やおむつの使用を余儀なくされた場合でも 自尊心を傷つけないよう支援するよう心掛けている。回復の兆しが見えたら元の習慣に戻せるよう支援を行なっている。排泄表にて排泄リズムを把握し トイレ誘導を行ない、出来るだけトイレでの排泄をうながしている。	利用者個々の排泄パターンで声かけ誘導を行っている。日中は、トイレでの排泄としているが、夜間、ポータブルトイレを使用する利用者もいる。排泄時に、利用者の意向により、タオルで覆うなど配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操を実施し、水分摂取にも気をつけ 主治医、訪問看護師と連携を取り、排便コントロールを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にお声掛けをし対応している。入浴拒否のある方にも出来るだけご本人のペースを乱さないようにお声かけし、対応している。足浴や全身清拭、着替えなどの提案もさせて頂き 少しでも気持ちが良くなって頂ける様支援している。	週3回を目安に、こまめに声かけている。入浴拒否の強い利用者には、無理に誘わず、本人のペースを乱さないように、足浴や全身清拭で少しでも気持ちが良いと思ってもらえるように、柔軟に対応している。冬至の時のゆず湯、時には入浴剤を入れて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の今までの生活習慣を大切に可能な限り、就寝時間、起床時間はその方のリズムに合わせて支援している。夜間不安で眠れない方へは、ゆっくりと話しを聞く時間などを設け 安眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については細心の注意を払い、職員複数で確認を行い服用して頂いている。薬情報のファイルを作り職員全員でどのような薬を飲まれているか把握し、必要に応じて薬について 往診医や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事や得意な事を把握し役割を持って頂いたり趣味の時間も大切にしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は難しいが、屋上スペースに菜園があり気候に良い日に気分転換、おやつを屋上で食べたり、体操をしたりしている。花見や公園など外出も行なっている。家族様の協力の共、外出を楽しまれている。	屋上は広く、日光浴や気分転換も兼ねて体操をしたり、机を出しておやつを食べたりもする。季節によっては、屋上の菜園で花や野菜を育てている。外出や買物も、家族の協力を得るなど、楽しんでもらえるよう支援出来ている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の入居者様でご自身で金銭管理を行われている方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話をかけたいという希望があった場合はお掛けいただいている。外からのお電話を頂いたときには取り次いでいる。郵便物もご自由にやり取りできるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付け入居者様と作り 季節感を感じて頂けるよう配慮している。又、ソファの位置やテーブルの位置なども居心地良く過ごせるよう考えている。	清潔感のある明るいリビングには、利用者と職員合作の“さくらの花”が壁一面に展示されている。ソファや食卓テーブルも、時々配置替えをして、気の合った利用者同志でおしゃべり出来る様、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節感を味わえるよう四季折々の花や、季節行事の張り絵 また、イベントがあった後に写真を現像し、施設内で見ていただけるようにしている。居室へ 入居者様同士が入り お話しや部屋の飾りなどみながら話される場面もある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中で使い慣れた物を持ってきて頂き自宅と変わりなく安心して生活が出来るように支援している。	小型のクローゼットとベッドが常設されている。馴染みの小引き出しや机などが持ち込まれ、利用者手作りのおひなさまのタペストリーやカレンダー、家族の写真などが飾られている。自宅と同じように、お気に入りの表札を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が困難な方には安全に歩行ができるように手すりを設置している。また、ネームプレート、トイレマークなど利用し 出来る事はご本人自身でされている。		